



生物資源科学科 動物栄養制御学  
菅原 邦生

私は昭和48年3月に畜産学科を卒業し、その後2年間名古屋大学大学院修士課程をへて、50年4月に、助手として畜産学科（学科改組で、生物生産科学科から生物資源科学科）に赴任して、今年の3月まで41年間峰が丘の農学部棟で過ごしました。途中（平成4から5年）大阪大学の蛋白質研究所に10ヶ月内地研究員として出かけた時のをぞくと、40年間ほとんど変わらない環境で過ごしたことになります。今考えてみると、大過なくよくここまで来たものだと思います。教職員と学生諸子に励まされ、支えられたおかげであります。感謝いたします。

赴任当初は昭和50年を過ぎても学生運動が続いていたので、落ち着かない日々を過ごしていました。55年頃からは本格的に研究を始め、同窓会員の先生方には助けていただいたり、励ましていただいたりして、なんとか博士の学位をいただきました。

その後は学位論文の研究を発展させようと試行錯誤し、色んなことに手を出して十分な成果を上げることができませんでした。しかし、精神的な余裕ができたのか、学生諸君とソフトボールやキャンプ、構内でのカラオケ、BBQなどを楽しみました。また、先生方と昼休みのテニスにも励みました。

平成7年に教授になってから、学内の委員や所属学会の役員の仕事を引き受け、多忙な日々を過ごしました。後半の20年間は大学「改革」がいろんな形で実施され、赴任当時は考えられなかったような状況になりました。印象深いというか今でも納得いかないのは、専門科目以外の共通教育科目の英語2単位を学部教員に担当させたことです。これより前に、生物学関連の授業を担当したことはありませんでしたが、英語まで「教える？」ようになるのは驚きで、試行錯誤の連続でした。教養部を廃止し、大学の教育を4年一貫教育にした「改革」の産物でした。定年退職前の数年間はさらに「改革」が「強化」され、教職員の数は増えない状況で、新たな業務が導入され、余裕がない日々を過ごしました。

同窓会の仕事は本学の卒業教員として常務理事等を務めました。後半の二十年あまりは、同窓会に貢献したことはありません。逆に、平成26年にはインドネシアでの国際会議に参加する費用の一部を補助していただき感謝しています。

宇都宮大学農学部と峰が丘同窓会の発展を祈って、筆を擱きます。



追悼

若林先生を偲ぶ



去る6月7日、本学名誉教授で農学部附属農場長も務められました若林荘一先生が93歳で逝去されました。先生は1922年、東京都新宿区に生まれました。この年は偶然にも宇都宮高等農林が設立された年であり、本学で教鞭を執

られたのも何かの縁を感じます。東京帝国大学在学中に学徒出陣で中国戦線に出征、その後中国の病院で終戦を迎えられました。東北大学を経て、1950年から38年の長きに亘り本学で研究・教育にあたられました。

退官後は、囲碁や旅行、考古学研究、と実に多彩な趣味を嗜まれました。同時に、旧制高校時代に取り組みされた弓道の稽古を再開。週3回の稽古に励まれました。一昨年、御年92歳で参加された「ねんりんピック栃木」では、県内最高齢選手として大きな話題となりました。

俳句は毎年多く詠まれていたようで、90歳の時に編纂された22冊目の句集「真正九十翁」を頂きました。その際には「これは『くそじい』と読むんだよ」と何々と笑っておられましたが、いずれも飾り気のない、深い句ばかりでした。先生の人柄をよく表しているものをいくつか紹介致します。

- ・山笑う横書き句集我一人
- ・青柳や父と巡りし中国路
- ・年用意妻のつくりし観音像（記念の仏像が出て来た）
- ・年用意息子夫婦に丸おんぶ（おかげでよい正月でした）
- ・大過なき九十年や蚯蚓鳴く
- ・天命のまま存えむ水中花
- ・吾亦紅松虫草を引き立てて

また、こうした趣味に加えて、様々なボランティア活動にも精力的に参加されました。とりわけグリーントラスト運動に熱心に取り組みられ、先生のご遺志により葬儀の香典は全てグリーントラストに寄付されました。

本年3月の卒業式の日、名誉教授の会にご参加いただきました折には、闘病中にも拘わらず、ご挨拶をいただきました。お帰りの際に大変強く握手していただいたのを憶えております。先生のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、先生には今後も同じ年の宇都宮大学を見守っていただきたいと願うばかりです。

（生物資源科学科 園芸学研究室 山根 健治）

